

公共図書館における情報リテラシー支援を創る，拓く，実行する

石川敬史（十文字学園女子大学）

【講義1】なぜ情報リテラシー支援が必要か？

～公共図書館における情報リテラシー支援を考えるために～

1. 本講座の目的・問題提起

2. 「情報リテラシー支援」を冷静に見つめ直す……

3. 定義，「方法と手段」の考え方

(1) 『図書館情報学用語辞典』丸善（第4版）

①「情報リテラシー」

②「図書館利用教育」

(2) 『図書館利用教育ガイドライン』（日本図書館協会図書館利用教育委員会）

(3) 方法・手段の考え方

4. 【演習】 As is To be

5. 学校図書館・大学図書館の事例から考える

(1) 【大学】高等教育のための情報リテラシー能力基準（ACRL）

(2) 【大学】高等教育のための情報リテラシー基準

(3) 【大学】高等教育のための情報リテラシーの枠組み

(4) 【大学】現代高等教育政策の文脈を解く

(5) 【大学】学生の生活システム

(6) 【学校】学校図書館における探究学習

(7) 【演習】大学で試行錯誤した実践例から考える：現場でツカエソウな「方法」

【講義2】公共図書館における情報リテラシー支援の可能性

1. 公共図書館における情報リテラシー支援

- (1) 現在の状況はどうか……
- (2) 文部科学省関連の資料から「情報リテラシー」を読み解く

2. 公共図書館における情報リテラシー支援の必要性

- (1) 「第2期教育振興基本計画」 中央教育審議会 (2013年6月14日)
- (2) モスクワ宣言 (IFLA) 2012年6月28日
- (3) 学習権宣言 (1985年) (社会教育推進全国協議会, 2011)
- (4) 「メディア情報リテラシー」(MIL) (坂本, 2009, 2014)
- (5) 公共図書館における情報リテラシー支援の目的を再考する

3. 公共図書館の実践例

4. 市民の図書館活用のストーリーと図書館の課題

- (1) 図書館の位置づけ, 評価再考
- (2) テーマ(主題)の選択・発見, 調査の視角
- (3) 資料収集(探索)の技法
- (4) 情報の整理と評価
- (5) 市民主体の調査活動へ